米国経済論		教授　大西　一成	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門選択科目	科目ナンバリング	23200204

１．授業のねらい・概要

米国経済を学ぶことはもとより，その経済政策が日本経済，欧州経済，中国経済・アジア経済等に及ぼす影響についても学ぶ。近年，国際経済において影響力を増している中国との経済関係も重視した内容とする。こうしたことから米国内の経済状況はもとより，米国を中心とした国際金融，通商問題等について重視した内容とする。

２．授業の進め方

日々の授業では米国経済の動向について理論的に考察することを重視する。そのため，経済専門紙はもとより論文等も取り上げる。経済理論については適宜，板書を用いながら解説する。自筆ノートの作成を重視する。

３．授業計画

１．イントロダクションと米国経済の概観	９．日本企業の対米輸出入
２．米国経済の歴史（1930 年～）と日本経済	10．米国の直接投資と日本の対米投資動向
３．米国の今日のマクロ経済動向の見方	11．米国の経済通商戦略
４．米国の金融政策とその影響	12．米国の NAFTA と EU との FTA(TTIP)
５．円／ドルを中心に見た為替動向	13．米国の医療保険制度
６．米国の経常赤字とその影響	14．米国の環境対策
７．米国の経済政策とアジア経済	15．総括・期末試験について
８．米国の財政赤字と影響	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習については，宿題という形で経済専門紙の米国経済中心に授業前に読んでおくことを求める。こうした予習には 1～2 時間程必要であろう。復習は，授業で取り上げた論点を見直すことをやはり 1 時間程度おこなうことが必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学期中の試験やレポートについては，全体的な解説はもとより，個別質問についてもオフィスアワー等，適宜対応する。レポートについては講評を添えて返却する。

６．授業における学修の到達目標

米国経済の動向を観察する力からはもとより，その影響力および他国との関係など，国際経済についてバランスの取れた考察力の修得を到達目標とする。

７．成績評価の方法･基準

授業における積極的な発言・課題提出（10%），レポート（20%），期末試験（70%）によって評価する。

８．テキスト･参考文献

テキストは，特に限定しない。毎回，論文，資料，データ等を配布する。参考文献は，中尾武彦（2008）『アメリカの経済政策　強さは維持できるか』(中公新書，800 円+税)，経済産業省（2018）『通商白書』が有益である。

９．受講上の留意事項

米国政府はもとより，日々連邦準備制度理事会（Federal Reserve Board, FRB）の動きをリサーチすることを求める。また，発表される米国経済指標についても注意深くチェックすることも必要である。